



いま、高原の家七塚では竹
パウダー論争に沸いている。
果実や野菜類に含まれる竹の粉



竹パウダーを撒いて野菜を育てる。それが大玉に育つと、写真入の
半信半疑の私は、意地悪をいふくら作つたであろうか。

野菜や果物の成長を促進！？ 半信半疑で結果待ち



⑬竹パウダー論争



収穫時期に結果が楽しみな
コ

末「竹パウダー」を撒いてその効果を試している。殺菌効果があり、成長を促進し、しかも味がよくなるという夢のようない文句のある竹パウダーに踊らされて、リンゴ、トマト、ナス、スイカ、キュウリ、オクラ、イネに撒いている。

この起きたのは、農業雑誌「現代農業」四月号に竹パウ

ダーをやると、小玉スイカは太玉スイカになり、ナシやりんごは摘果しなくとも全部の実が大玉に育つと、写真入りの記事が載つていたことに始まる。その記事を信じる我らの仲間、市川さん（高原の家七塚理事）はすぐに竹パウダー製造機を作つて竹パウダーを作り始めた。すでに3百キロくらい作つたであろうか。

半信半疑の私は、意地悪をいふくら作つたであろうか。

の、牙によって腹部に穴が開いたカエルの断末魔の声であることかしづしづあります。

カエルを食べるヘビはたくさんいますが、中でもヤマカガシは、毒を持っているため他

のところ、野菜類はやたら茎が大きくなっているが実は大きく多くもない。これからどんな効果が出るかわからな

い。秋まで成り続けるかもしれないし、美味しくなるかも

しない。

やはり自然のものは、速効性ではないので、もし効き目があるとすれば、長時間かけ成長する果樹の方に効果が現れるのではないか？

結果が出るのは十一月である。そのとき信じる市川が勝つか、疑う西村が勝つか、いずれにしても負けた方が三つ指をついて詫びを入れることになつている。

今回は、内輪もめの話で恐縮だが、よい結果は隠さず公表するので、皆さんご期待あれ。

NPO法人七塚原自然体験
活動研究センター
理事長 西村清巳

現代は恐竜の絶滅以来の大絶滅期であり、1年間に約4万種もの野生生物が絶滅しているといわれています。野生生物を絶滅させると、人間の手で復活させることはできません。

また、生物同士は複雑なつながりをもって生態系を構成しているため、ある種の絶滅は他の種にも影響を及ぼします。私たちが生きていくための環境も損なわれるかもしれません。種の絶滅を避けることは、生物多様性の保全を進めるための最優先の課題です。

絶滅のおそれのある種を保護

いきものを
まもる
⑬レッドデータブック

職員が専門家として参加しています。

人間が関わって起きる絶滅は、開発による生息・生育地の破壊、環境の汚染、乱獲などが主要な原因となっていました。しかし、最近では、里地・里山のような二次的自然の質の変化が問題になっています。生活スタイルの変化や里山の経済的価値の減少にともない、人の暮らしと関わりながら維持してきた自然が少なくなっています。メダカやゲンゴロウのような身近な生物が姿を消しつつあり、秋の七草として親しまれたフジバカラマやキキョウ

などの、牙によって腹部に穴が開いたカエルの断末魔の声であることかしづしづあります。

カエルを食べるヘビはたくさんいますが、中でもヤマカガシは、毒を持っているため他

のところ、野菜類はやたら茎が大きくなっているが実は大きく多くもない。これからどんな効果が出るかわからな

い。秋まで成り続けるかもしれないし、美味しくなるかも

しない。

やはり自然のものは、速効性ではないので、もし効き目があるとすれば、長時間かけ成長する果樹の方に効果が現れるのではないか？

結果が出るのは十一月である。そのとき信じる市川が勝つか、疑う西村が勝つか、いずれにしても負けた方が三つ指をついて詫びを入れることになつている。

今回は、内輪もめの話で恐

縮だが、よい結果は隠さず公表するので、皆さんご期待あれ。

するため、それをリストアップしたものがレッドデータブックです。地域の自然を守っていくための重要な役割を担っています。現在、国や地方公共団体などから多くのレッドデータブックが発行されていますが、広島県では

全国にさきがけて平成7年に県版レッドデータブックが作られました。

さらに、平成16年に改訂版を発行し、今年から2回目の見直しが始まります。当協会は事務局として改訂業務を受託するとともに、



絶滅危惧種に指定されたキキョウ

（環境保全課 井原 康）

生物調査事業

さまざまな人間活動や生活様式の変化により、近年地域の生物が減っています。豊かな自然は私たちの暮らしにとってなくてはならないものです。当協会では、身近な自然を知り、大切な生き物を守るために生物調査事業を行っています。

地域の自然を知る

陸上生物・水生生物・海域生物調査



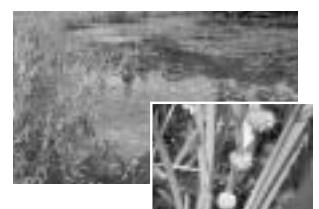
大切な生き物を守る

野生動植物保全対策調査



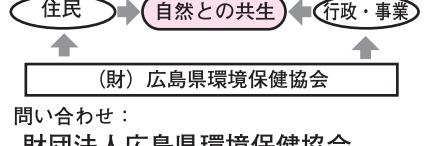
失われた自然を取り戻す

自然再生計画立案・実施



実施の枠組み

住民や行政・事業者の自然との共生の取組みを生物保全の専門家としてお手伝いします。



問い合わせ：
財団法人広島県環境保健協会
企画開発センター 環境保全課
電話：082-293-1517 (代) FAX：082-293-8915



コブラのように首を平たくして威嚇する（上）、石垣で日光浴（左）

